

報道関係者各位

一般社団法人東京ビエンナーレ

《記事掲載のお願い》東京の地場に発する国際芸術祭
東京ビエンナーレ 2023 が
「市民でつくりあげる芸術祭」を目指してクラウドファンディングに挑戦！
寄付のリターンは、参加アーティストのコラボTシャツや総合ディレクターらによる特別ツアー、
歴史的建造物等での特別な体験ツアーなど豪華！



このたび、一般社団法人東京ビエンナーレ(事務局：東京都千代田区)は、本年夏から秋にかけて開催予定の「東京ビエンナーレ 2023」開催に向け、クラウドファンディングでのご支援を募ることとなりました。初開催となった前回、新型コロナによる苦境からの開催実現の大きな力となったのが、クラウドファンディングを通じた250名以上の方々からのご支援でした。御寄付頂いたの方々からの声は「既存の価値観をじわじわ変えてくれる力強いプロジェクトに期待しています！」や「ボトムアップ精神で、東京に新しい風景が生まれるのを楽しんでいます」という期待の声が多くあり、そこで生まれた広がり・つながりは金銭的支援を超えた大切なものとなりました。

そこで今回はこの経験もふまえ、**民間主導で「市民でつくりあげる国際芸術祭」という従来のコンセプトをより本質的なものとすべく、改めてクラウドファンディングに挑戦します。**さらに今回は芸術祭を**入場無料化**することで、子どもたちやあまり芸術に触れる機会がなかった若い層、親子連れなど、誰でも参加できる開かれた場、**つながりを生む場**とすることを目指します。ご支援者へのリターンには、アーティストコラボTシャツ、ディレクター陣が案内する会場ツアーなど、芸術祭ならではのユニークな内容を用意致しました。今回の挑戦をぜひ各所にてご紹介いただければ幸いです。

クラウドファンディング概要

ウェブサイト：<https://readyfor.jp/projects/tokyobiennale2023/>

実施期間：2023年3月23日（木）～4月28日（金）

目標金額：500万円

主な使途：開催会場（千代田区・中央区・文京区・台東区の学校や歴史的建築物、公共空間、遊休空間、水辺など40カ所程度）の運営費、および入場無料エリア実現のための諸経費

リターン：参加アーティスト陣のデザインによるオリジナルTシャツや、限定グッズ、図録、また総合ディレクターらによる特別ツアー、歴史的建築物等での特別な体験ツアーなど（詳細はクラウドファンディング開始時に公開予定）

クラウドファンディング挑戦にあたって

総合ディレクター中村政人・西原 珉 より

東京ビエンナーレは、市民でつくりあげる国際芸術祭です。開催エリアに暮らし・働く方々と専門家たちとで「市民委員会」を立ち上げ、まちに宿る文化資源を感じながらつくりあげます。開催時は人々が街に飛び込むように作品体験を共有し、またはプロジェクトに参加できる形を大事にしています。「完成した作品を集めて紹介する」だけの祭典ではなく、市民×アーティストによる活動が起こる「場」こそ芸術祭の本質だと考えます。

第2回のテーマは「リンケージ つながりをつくる」です。ここでのリンケージとは有形無形の「つながり」を意味します。現代における豊かなつながりとは何かを、東京を舞台に多様なリンケージ（プロジェクト）群が探っていきます。また、前回参加予定だったものの、新型コロナの影響で来日が叶わなかった海外作家も改めて招聘します。さらに世代やバックグラウンドの違いを越えて、誰もが新しいつながりをつくれる開かれた芸術祭を目指し、入場無料化にも挑戦したいと考えました。それは芸術祭が「新しい公共＝コモンズ」としての場となり、新たな出会いの扉を開く挑戦とも言えます。

ご賛同いただける方々や、このチャレンジの行方を見てもうと思ったださる方々は、ぜひ一緒に東京ビエンナーレという芸術祭をつくる気持ちで、ご支援いただけたら幸いです。

「東京ビエンナーレ 2023」開催概要

名称：東京の地場に発する国際芸術祭 東京ビエンナーレ 2023

テーマ：リンケージ つながりをつくる

会期：2023年7月～9月 夏会期（プロセス公開）

2023年9月23日（土・祝）～11月5日（日） 秋会期（成果展示）

会場：東京都心北東エリア（千代田区、中央区、文京区、台東区の4区にまたがるエリア）歴史的建築物、公共空間、学校、店舗屋上、遊休化した建物等（屋内外問わず）（2023年3月24日時点）

主催：一般社団法人東京ビエンナーレ

参加プロジェクト（リンケージ）およびメンバー [詳細は添付資料3参照/今後も更新予定]：

- 「東叡山 寛永寺」（東叡山 寛永寺、東京藝術大学、一般社団法人東京藝術大学芸術創造機構、参加アーティスト [日比野克彦、鈴木理策、西村雄輔ほか]、他関係企業等）
- 「まちが教えてくれるまち：ラーニング谷中」（西原 珉、石河美和子、椎原晶子、黒田菜月ほか）

- 「ジュエリーと街 ラーニング」(小池一子、一力昭圭、岩間 賢、杉浦時斗)
- 「バブローブ：100年分の服」(西尾美也、海老原義也、岩間 香、穴戸遊美)
- 「超分別ゴミ箱 2023」(藤幡正樹、乾 義和、長峰宏治ほか)
- 「東京ドームシティ アートプロジェクト」(株式会社東京ドーム、東京藝術大学、一般社団法人東京藝術大学芸術創造機構、近隣小中高校、参加アーティスト等)
- 「大丸有アートリンケージ」(Slow Art Collective、池田晶紀ほか)
- 「TOKYO ART FARM (仮)」(Tokyo Urban Farming (TUF) [アンバサダー：近藤ヒデノリ、小野勝彦、小杉祐美子 (UoC)]、賛同企業、参加アーティスト等)
- 「Not Lost Tokyo」(並河 進、豊田啓介、瀬賀未久、藤原 龍、根之木颯亮、新納大輔、喜々津良、田中健人、鏡味史子、根子敬生、参画企業・団体：gluon、電通、CIVILTOKYO 等)
- 「東京のうた」(湯山玲子、羽鳥靖子、森大吉) 今回のテーマに相応しい東京の各地域の店、東京で活動する歌手、芸人、流し、合唱団、ドラアグクィーン、役者、レコード会社、ラジオ局など予定)
- 「ソーシャルダイブ : アーティスト・イン・レジデンス・プロジェクト」(クレイ・チェン 、ブスラ・トゥンチ+ケレム・オザン・バイラクター、ペドロ・カルネイロ・シルヴァ+アーダラン・アラム、マルコ・パロッティ、マイケル・ホーンブロウ、ヒルダー・エリサ・ヨンシュドッティル、ホズィーリス・ガヒーード)

ウェブサイト：<https://tokyobiennale.jp/>

添付資料1

東京ビエンナーレ 2023 実施体制

第1回目につき中村政人が共同総合ディレクターを務め、前回の共同総合ディレクター・小池一子（クリエイティブディレクター）に代わり、西原 珉（キュレーター）を新たに共同総合ディレクターに迎えました。

東京ビエンナーレ 2023 総合ディレクタープロフィール

中村政人（なかむら・まさと）

アーティスト。東京藝術大学絵画科教授。3331 Arts Chiyoda 統括ディレクター。東京ビエンナーレ 2020/2021 総合ディレクター。アートを介してコミュニティと産業を繋げ、文化や社会を更新する都市創造のしくみをつくる社会派アーティスト。第49回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本代表。平成22年度芸術選奨受賞。2018年日本建築学会文化賞受賞。1997年よりアート活動集団「コマンドN」を主宰。全国で地域再生型アートプロジェクトを展開。東京ビエンナーレ 2020/2021 では小池一子（クリエイティブディレクター）と共に総合ディレクターを務めた。



西原 珉（にしはら・みん）

キュレーション、心理療法士。90年代の現代美術シーンで活動後、渡米。ロサンゼルスでソーシャルワーカー兼臨床心理療法士として働く。心理療法を行うほか、シニア施設、DVシェルターなどでアートプロジェクトを実施。2018年日本に戻ってアートとレジリエンスに関わる活動を試行中。現在、秋田公立美術大学教授。米国カリフォルニア州臨床心理療法士免許。東京ビエンナーレ 2020/2021 では参加作家として「トナリプロジェクト」を推進し、東京ビエンナーレ 2023 においても継続した活動を展開する。



東京ビエンナーレ 2023 実施体制

総合ディレクター	中村政人、西原 珉
プロジェクトプロデューサー	中西 忍
プロジェクトディレクター	岩間 賢、小池一子
クリエイティブディレクター	佐藤直樹
コミュニケーションディレクター	並河 進
PR ディレクター	若林直子
メディアリエゾン	今田素子
WEB ディレクター	並河 進、根子敬生
エディトリアルディレクター	内田伸一
アートディレクター	尾崎友則
国際渉外担当	ダニエル・バブレク
事務局長	穴戸遊美
プロジェクトマネージャー	森田裕子
コーディネーター	川上智子、石河美和子、岩本室佳（広報）、吉岡周流、岸本麻衣

※2023年3月23日現在

添付資料2

東京ビエンナーレ 2023 ステイトメント

1993年、銀座でゲリラ的にアートプロジェクトを行った時のことである。私は、8丁目の裏路地の路肩に、無垢の鉄の彫刻をそっとおいた。高さ50cmくらいでとても一人で持ち上げることは難しい重さである。路肩空間の寛容性を読み解き狙いを定め設置した。しかし、いざ置いてみると、移動・撤去されることに対して不安になり、作品を標識のポールに鎖でつないだ。何気ない路肩がかなりの緊張感ある場に変容した。極めてプライベートなものをパブリックな空間に置くことで、その両者の関係を探りたかった。

今だから思えることだが、個人的行為がパブリックな空間でしっかりと受け入れられるためには、多くのつながりをつくらなくてはならない。歩道管理行政の許可、近隣のビル管理者、商店街、町会などの意向確認、災害時などの安全管理対策、設置対策予算の捻出、土地の歴史性や認知度等、多くの関係機関との交渉や配慮をしなくてはならない。これらの関係を気にせず、一人でゲリラ的に置くこともできるが、もし街の多くの関係性を調整しつながりをつくれれば、法規的にも問題ないように設置することができる。当時は後者の関係が全く見えていなかったからか、かえって大胆な行動ができたのかもしれない。

—The Ginbrart 展（1993年）をめぐる西原 珉との対話より、中村政人の発言（2022年）

ひとつの作品をめぐる起きたささやかな緊張が、街という公共の場所で新たな価値観になるということは、目先のつながりだけではなく、その街の全体的な関係性を見だし、それらとつながり、変えていくことを意味します。街に現れた「個」の存在が、それまでとは異なる見え方や出来事としてとらえられていく——さらに、見えにくいつながりをたぐり寄せるように紐解き新しい関係をつくっていくことは、「個」のあり方を変え、社会的に確かなものとして信頼を得ることになるでしょう。

2回目となる東京ビエンナーレ 2023は、「リンケージ つながりをつくる」がテーマです。リンケージとは、人間関係だけではなく、場所、時間、人、生物、植物、できごと、モノ、情報などあらゆる存在が複雑に関係しながら、刻々と変容していく世界に生きているからこそ見いだされていく「関係性=つながり」です。

現在のアートの社会的役割のひとつは、コロナ禍における社会環境の変化に対して自由な視点で関係性を持つることにあるのではないかと。東京ビエンナーレ 2023は、そんなアートの「つながる力」への信頼に基づいて、アーティストと、企業と、地域と、参加者、来場者がそれぞれを取り巻く「リンケージ（つながり）」に気づき、それらに加わる新しいつながりをつくり出す場となっていきます。

そして、アートを通じて連環するリンケージが、江戸東京の基層文化と地場の形成プロセスに光をあて、東京ビエンナーレが次の100年後まで続くつながりをつくる活動の礎になることを目指します。

総合ディレクター 中村政人 西原 珉

リンケージとは

東京ビエンナーレ 2023「リンケージ つながりをつくる」は、私たちと私たちのまわりの「リンケージ（つながり）」をとらえることをテーマとします。場所、時間、人、生物、植物、できごと、モノ、情報——私たちは、あらゆる存在が複雑に関係しながら、刻々と変容していく世界に生きています。なかでもここ東京は、非常に緻密な関係性によって織り上げられた社会だと言えるでしょう。東京の歴史、文化、地域と、またそれを支えている人たちと、新しくつながるには？ 新しいつながりをつくるには？ つながりを強くしたり、深めたりするには？ 現在のアートの社会的役割の一つは、社会環境に対して自由な視点で関係性を持つることにあるかもしれません。東京ビエンナーレ 2023は、そんなアートのつながり力をもとに、参加者、来場者がそれぞれの「リンケージ」を見だし、さらに新しいつながりが生まれ、広がっていく場となることを目指します。

添付資料3

東京ビエンナーレ 2023 参加プロジェクト（リンケージ）とメンバー

※今後、順次更新予定

東叡山 寛永寺

創建 400 年を控えた上野の寛永寺と近隣の東京藝術大学が連携し、歴史と未来をつなぐアートプロジェクト。

現在のメンバー：東叡山 寛永寺、東京藝術大学、一般社団法人 東京藝術大学芸術創造機構、参加アーティスト（日比野克彦、鈴木理策、西村雄輔ほか）、他関係企業等



写真：日比野克彦《ALL TOGETHER NOW (Transforming box series)》（「東京ビエンナーレ 2023 はじまり展」展示風景、2022 年） 撮影：池ノ谷侑花（ゆかい）

まちが教えてくれるまち：ラーニング谷中

西原珉（東京ビエンナーレ 2023・共同総合ディレクター）と多様な参加者が、豊かな手しごとや芸術家のしごとを支えてきた谷中の歴史にふれ、このまちの不思議な懐の深さにつながります。各種イベントや映像配信、まちなか各所での映像インスタレーションも予定。

現在のメンバー：西原珉、石河美和子、椎原晶子、黒田菜月ほか



ジュエリーと街 ラーニング

人に一番身近なクリエイション「ジュエリー」を再発見、再創造するプロジェクト。参加者はクリエイティブ・ディレクターの小池一子やジュエリー・デザイナーの一力昭圭と御徒町～外神田のまちに専門店、職人さんを訪ね、家に眠る古い装身具をコンテンポラリー・アクセサリーにつくりかえます。

現在のメンバー：小池一子、一力昭圭、岩間 賢、杉浦時斗

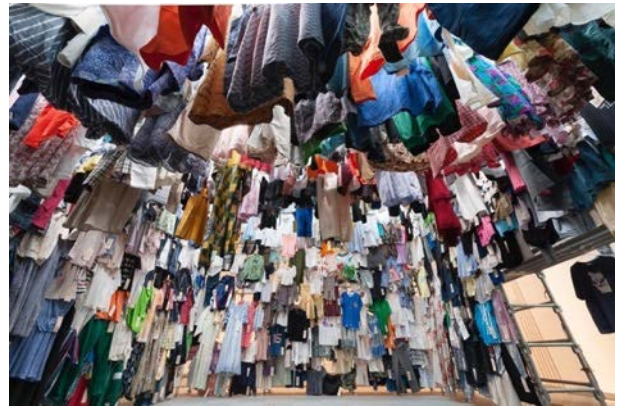


パブローブ：100年分の服

アーティストの西尾美也らが、関東大震災後の復興期に建てられた神田の「海老原商店」を拠点に、図書館のようなパブローブ（パブリック＋ワードローブ）を展開。衣服を通じて100年の時間を未来の東京へつなげます。

現在のメンバー：西尾美也、海老原義也、岩間 香、穴戸遊美

写真：西尾美也 + 403architecture [dajiba] 《Pubrobe》2016年（愛知県美術館）撮影：Yoshihiro Kikuyama



超分別ゴミ箱 2023

私たちの日常生活と切り離せないプラスチックのゴミについて知り、考えるプロジェクト。メディア・アーティストの藤幡正樹と参加者が、ゴミをめぐる生態系を見つめ、「分別」という行為から私たちとゴミの関係について問いかけます。

現在のメンバー：藤幡正樹、乾 義和、長峰宏治ほか



東京ドームシティ アートプロジェクト

1936年の創業以来、日常と非日常、また歴史・文化と多くの人々が交差する東京ドームシティ内の空間でアートプログラムを展開。

現在のメンバー：株式会社東京ドーム、東京藝術大学、一般社団法人東京藝術大学芸術創造機構、近隣小中高校、参加アーティスト等

写真：高橋臨太郎「Radius harps / After a typhoon」（「東京ビエンナーレ 2023 はじまり展」展示風景、2022年）



大丸有アートリンケージ

都内有数のビジネス街にして、ショッピングや飲食のまちとしても人気の大手町・丸の内・有楽町エリアで、まちと人々の新たなつながりを創出します。

現在のメンバー：Slow Art Collective、池田晶紀ほか

写真：Slow Art Collective「Slow Art Collective Tokyo」（「東京ビエンナーレ 2023 はじまり展」、東京サンケイビル、2022 年）



TOKYO ART FARM（仮）

「アーバンファーマリングをもっと楽しく、美しく、あたりまえに」を目指して活動する Tokyo Urban Farming が、多様な人々の協働により東京で農×アート体験を展開。移動型ファーム「MOBILE FARM」や、「食べられるアート」体験、音楽表現「TOKYO VEGETABLE ORCHESTRA」などを構想中です。

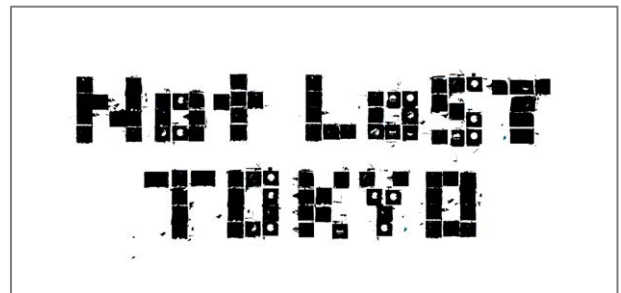
現在のメンバー：Tokyo Urban Farming (TUF)（オーガナイザー：近藤ヒデノリ、小野勝彦、小杉祐美子 (UoC)）、ミヤムラレイコ、賛同企業、参加アーティスト等



Not Lost Tokyo

老朽化で取り壊される建物や、コロナ禍で閉店となるお店、開発で変わっていく風景など、未来に残したい東京の風景、記憶、人々のつながりを、東京に関わる人々の力と AR テクノロジーで保存・再生することを試みます。今後も継続的発展を目指すプロジェクトです。

現在のメンバー：並河 進、豊田啓介、瀬賀未久、藤原 龍、根之木颯亮、新納大輔、喜々津良、田中健人、鏡味史子、根子敬生、参画企業・団体 (gluon、電通、CIVILTOKYO 等)



東京のうた

東京は世界でも指折りの「ご当地ソング」が多い都市。湯山玲子（著述家・プロデューサー）らが軸となり、東京の魅力や人々の心情を歌った歌と、この地で歌を生業にする歌手たち、そして、歌われてきた「ご当地」の歴史などから選ばれた店とストリートの三者をつなぐ試みです。

現在のメンバー：湯山玲子、羽鳥靖子、森大吉、今回のテーマに相応しい東京の各地域の店、東京で活動する歌手、芸人、流し、合唱団、ドラアグクィーン、役者、レコード会社、ラジオ局など予定。



ソーシャルダイブ： アーティスト・イン・レジデンス・プロジェクト

前回の「東京ビエンナーレ 2020/2021」において、新型コロナウイルスの影響で参加が叶わなかった7組の海外アーティストを改めて招聘。かれらの視点から東京とそこで暮らす人々が持つ魅力を見つめ、新しい価値を生み出す表現を都内各所で発表します。

現在のメンバー：クレイ・チェン、ブスラ・トゥンチ+ケレム・オザン・バイラクター、ペドロ・カルネイロ・シルヴァ+アーダラン・アラム、マルコ・バロッティ、マイケル・ホーンブロウ、ヒルダー・エリサ・ヨンシュドッティル、ホズィーリス・ガヒーード



最新情報は東京ビエンナーレ ウェブサイトをご覧ください。

<https://tokyobiennale.jp/>